

9.2 城山ダム流域の流域環境基準の類型指定状況

城山ダム流域の水域類型指定状況は、表 9.2、図 9.2に示すとおりである。

表 9.2 城山ダム流域の水域類型指定状況

水域名称	水 域	該当 類型	達成 期間	指定年月日	
相模川水系の 相模川（桂川 を含む）	相模川下流 （寒川取水堰より下流）	河川 C	イ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川上流(1) （柄杓流川合流点より上流）	河川 AA	イ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川上流(2) （柄杓流川合流点から相模湖大 橋（相模ダム）まで）	河川 A	ハ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川上流(3) （相模湖大橋（相模ダム）から城 山ダムまで）	河川 A	イ	昭和 48. 3. 31	環境庁 告示
	相模川中流 （城山ダムから寒川取水堰まで）	河川 A	ロ	昭和 45. 9. 1	閣議 決定
相模川水系の 宮川	宮川（相模川に合流するものの全 域）	河川 B	ロ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 柄杓流川	柄杓流川（全域）	河川 A	ハ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 朝日川	朝日川（全域）	河川 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 笹子川	笹子川（全域）	河川 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 鶴川	鶴川（全域）	河川 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 山中湖	山中湖（全域）	湖沼 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 河口湖	河口湖（全域）	湖沼 A	イ	昭和 49. 4. 1	山梨県 告示
相模川水系の 中津川	中津川（宮ヶ瀬ダム下流端から下 流の区域）	河川 A	イ	平成 17. 3. 11	神奈川 県告示

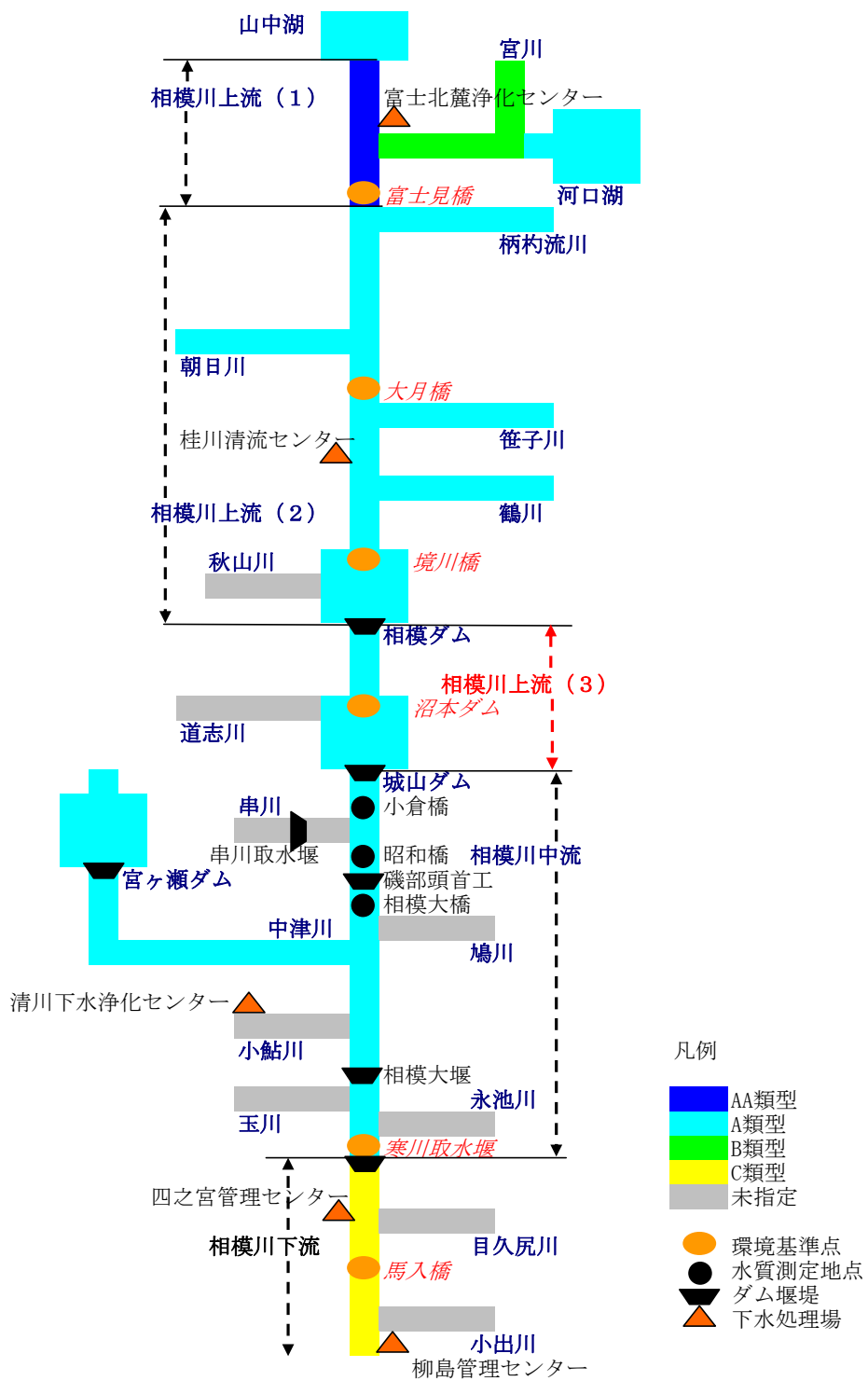


図 9.2 城山ダム流域の概要図

9.3 城山ダム貯水池の水質状況

城山ダム貯水池の水質経年変化は、表 9.3、図 9.3に示すとおりである。

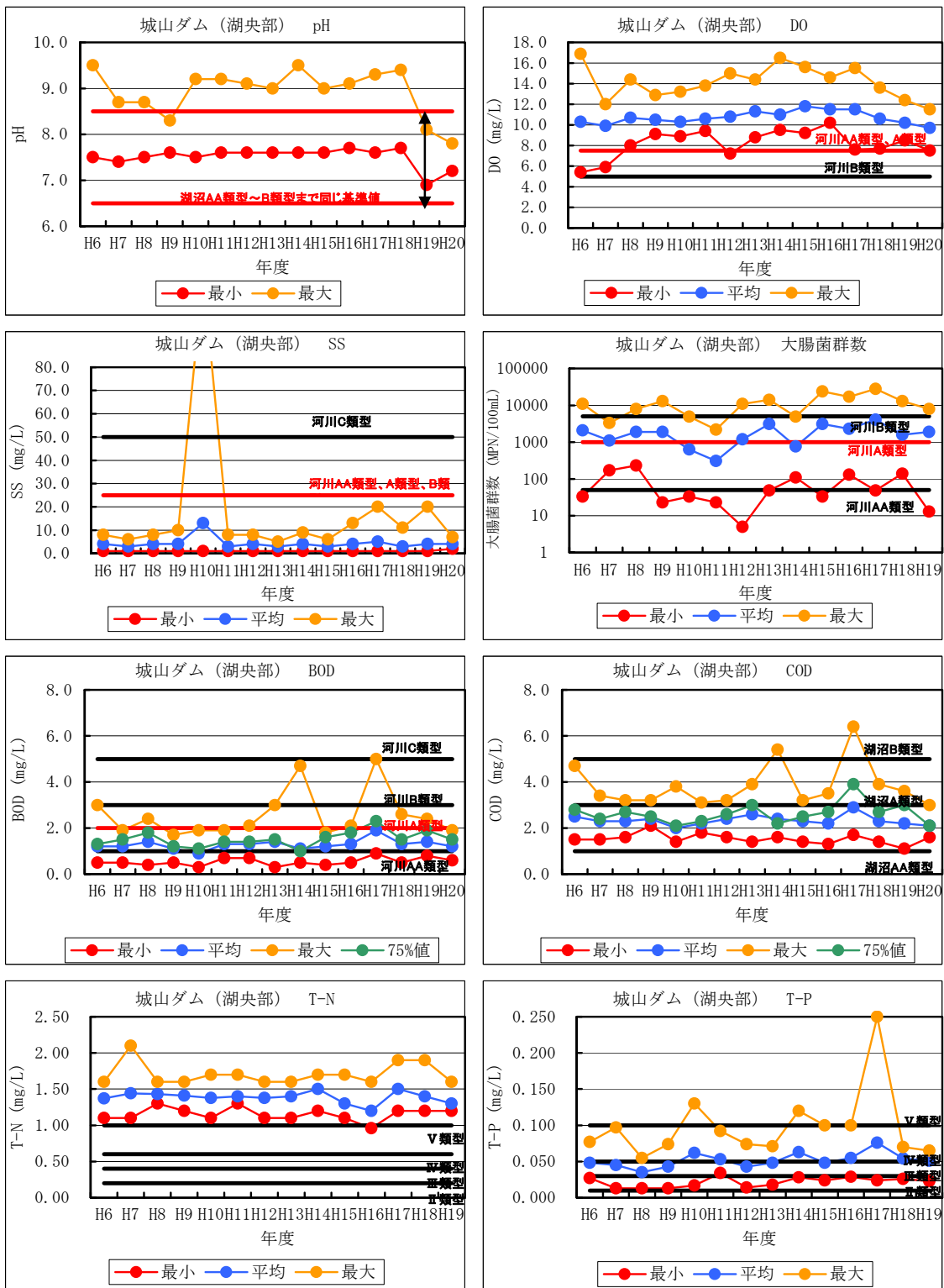
表 9.3 城山ダム貯水池水質経年変化

年度	pH			DO(mg/L)				BOD(mg/L)			
	最小	最大	m/n	最小	平均	最大	m/n	最小	平均	最大	75%値
H6	7.5	9.5	3/12	5.4	10.3	16.9	2/12	0.5	1.2	3.0	1.3
H7	7.4	8.7	1/12	5.9	9.9	12.0	1/12	0.5	1.2	1.9	1.5
H8	7.5	8.7	3/12	8.0	10.7	14.4	0/12	0.4	1.4	2.4	1.8
H9	7.6	8.3	0/12	9.1	10.5	12.9	0/12	0.5	1.1	1.7	1.2
H10	7.5	9.2	2/12	8.9	10.3	13.2	0/12	0.3	0.9	1.9	1.1
H11	7.6	9.2	2/12	9.4	10.6	13.8	0/12	0.7	1.3	1.9	1.4
H12	7.6	9.1	3/12	7.2	10.8	15.0	1/12	0.7	1.3	2.1	1.4
H13	7.6	9.0	5/12	8.8	11.3	14.4	0/12	0.3	1.4	3.0	1.5
H14	7.6	9.5	4/12	9.5	11.0	16.5	0/12	0.5	1.1	4.7	1.0
H15	7.6	9.0	4/12	9.2	11.8	15.6	0/12	0.4	1.2	1.8	1.6
H16	7.7	9.1	5/12	10.2	11.5	14.6	0/12	0.5	1.3	2.1	1.8
H17	7.6	9.3	4/12	7.6	11.5	15.5	0/12	0.9	1.9	5.0	2.3
H18	7.7	9.4	2/12	7.7	10.6	13.6	0/12	0.5	1.3	2.6	1.5
H19	6.9	8.1	0/12	8.5	10.2	12.4	0/12	0.8	1.4	2.4	1.9
H20	7.2	7.8	0/12	7.5	9.7	11.5	0/12	0.6	1.2	1.9	1.5

年度	SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
	最小	平均	最大	m/n	最小	平均	最大	m/n
H6	1	4	8	0/12	3.3E+01	2.1E+03	1.1E+04	5/12
H7	1	3	6	0/12	1.7E+02	1.1E+03	3.3E+03	4/12
H8	1	4	8	0/12	2.3E+02	1.9E+03	7.9E+03	6/12
H9	1	4	10	0/12	2.3E+01	1.9E+03	1.3E+04	3/12
H10	1	13	120	1/12	3.3E+01	6.3E+02	4.9E+03	1/12
H11	1	3	8	0/12	2.3E+01	3.1E+02	2.2E+03	1/12
H12	1	4	8	0/12	5.0E+00	1.2E+03	1.1E+04	3/12
H13	1	3	5	0/12	4.9E+01	3.1E+03	1.4E+04	5/12
H14	1	4	9	0/12	1.1E+02	7.6E+02	4.9E+03	2/12
H15	1	3	6	0/12	3.3E+01	3.1E+03	2.4E+04	5/12
H16	1	4	13	0/12	1.3E+02	2.3E+03	1.7E+04	5/12
H17	1	5	20	0/12	4.9E+01	4.1E+03	2.8E+04	7/12
H18	1	3	11	0/12	1.4E+02	1.6E+03	1.3E+04	3/12
H19	1	4	20	0/12	1.3E+01	1.9E+03	7.9E+03	4/12
H20	2	4	7	0/12	—	—	—	—

年度	COD(mg/L)				T-N(mg/L)			T-P(mg/L)		
	最小	平均	最大	75%値	最小	平均	最大	最小	平均	最大
H6	1.5	2.5	4.7	2.8	1.10	1.37	1.60	0.027	0.048	0.077
H7	1.5	2.3	3.4	2.4	1.10	1.44	2.10	0.013	0.045	0.097
H8	1.6	2.3	3.2	2.7	1.30	1.43	1.60	0.013	0.035	0.055
H9	2.1	2.4	3.2	2.5	1.20	1.41	1.60	0.013	0.043	0.074
H10	1.4	2.0	3.8	2.1	1.10	1.38	1.70	0.017	0.062	0.130
H11	1.8	2.2	3.1	2.3	1.30	1.40	1.70	0.034	0.053	0.092
H12	1.6	2.4	3.2	2.6	1.10	1.38	1.60	0.014	0.043	0.074
H13	1.4	2.6	3.9	3.0	1.10	1.40	1.60	0.018	0.048	0.071
H14	1.6	2.4	5.4	2.2	1.20	1.50	1.70	0.028	0.063	0.120
H15	1.4	2.3	3.2	2.5	1.10	1.30	1.70	0.024	0.048	0.100
H16	1.3	2.2	3.5	2.7	0.96	1.20	1.60	0.029	0.055	0.100
H17	1.7	2.9	6.4	3.9	1.20	1.50	1.90	0.024	0.076	0.250
H18	1.4	2.3	3.9	2.7	1.20	1.40	1.90	0.026	0.054	0.070
H19	1.1	2.2	3.6	3.0	1.20	1.30	1.60	0.023	0.051	0.065
H20	1.6	2.1	3.0	2.1	—	—	—	—	—	—

注) n:測定実施検体数、m:水質環境基準を満足しない検体数
資料:神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定結果



注) 現在城山ダム水域は河川 A 類型であり、赤字・赤線でこれを示した。

図 9.3 城山ダム貯水池の水質の経年変化

N/P 比は、平成 17 年度を除いて 20 以上 となっている。一方、T-P は、すべて 0.02mg/L 以上となっている。

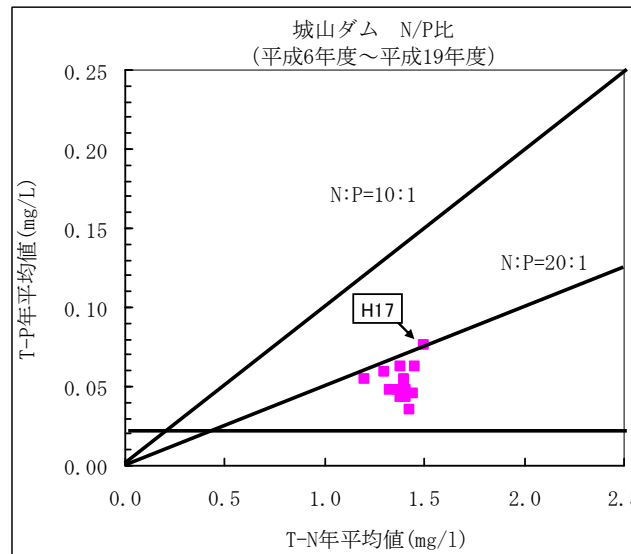


図 9.4 城山ダム N/P 比の状況

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼(全窒素/全磷比が 20 以下であり、かつ全磷濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。)についてのみ適用
 (「水質汚濁に係る環境基準について」(告示・S46.12.28 環告 59) 別表 2 の 1(2)のイの備考 2)

<平成 17 年度の COD、T-P 濃度について>

平成 17 年度の T-P 濃度は、図 9.5 に示すとおりであり平成 17 年 8 月に高濃度を検出している。

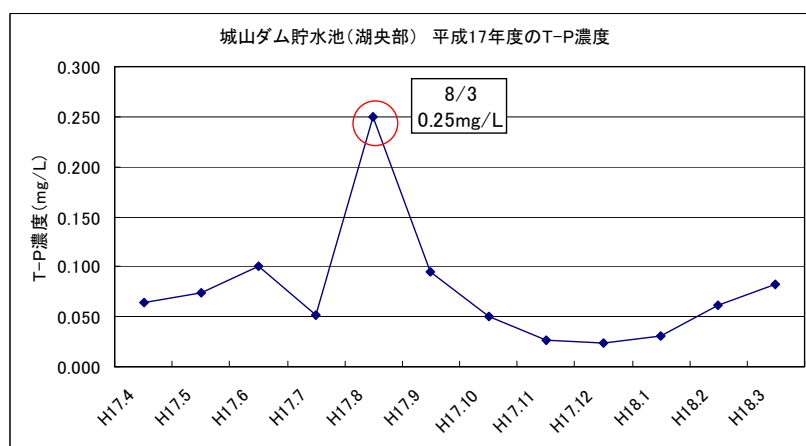


図 9.5 城山ダム (湖央部) の T-P 濃度の経月変化 (平成 17 年度)

一方、平成 17 年度の T-P 濃度は、図 9.6 に示すとおりであり平成 17 年 8 月に高濃度を検出している。このときの先行降雨は表 9.4 に示すとおりであり、測定日 8 日前に 165mm の比較的大きい雨を観測している。

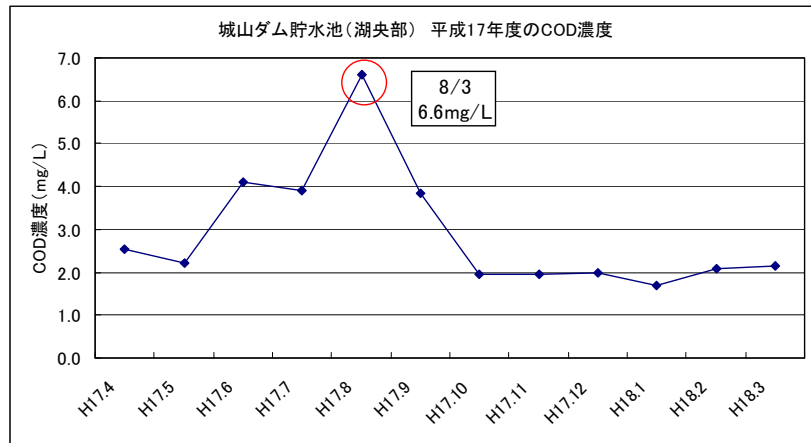


図 9.6 城山ダム（湖央部）の COD 濃度の経月変化（平成 17 年度）

表 9.4 平成 17 年度の先行降雨の状況

年	月日	降水量									
		測定日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前	6日前	7日前	8日前	9日前
H17	8/3	0	0	0	0	0	0	0	1	165	36

また、平成 17 年度におけるクロロフィル a の経月変化を図 9.7 に示す。夏場においてクロロフィル a の数値が高くなっていることから、植物プランクトンの増殖により高濃度が検出された可能性が考えられる。

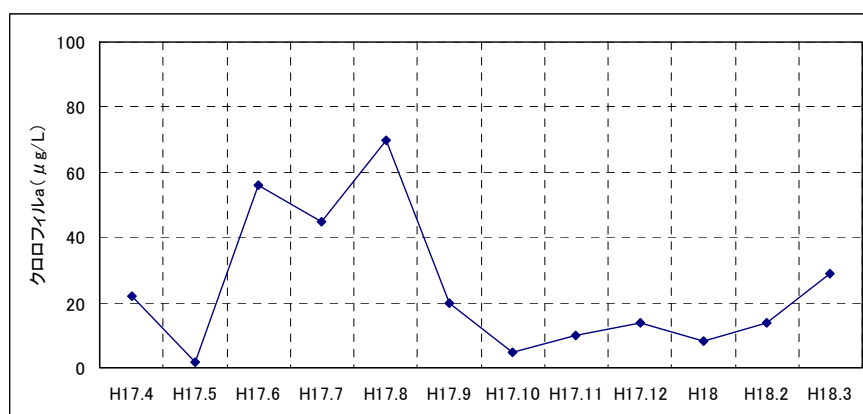


図 9.7 城山ダムのクロロフィルの a の経月変化（平成 17 年度）

以上から、平成 17 年 8 月の COD と T-P は、出水の影響が大きいと考えられるため、先行降雨の影響を受けた値と判断できる。

なお、上記で先行降雨を受けた値を除外した場合の COD75%平均値は 2.6 mg/L となる。

また、上記の検体値を除外した場合の T-N/T-P 比を図 9.8 に示す。この図より、平成 17 年度の N/P 比は 25.0 となる。

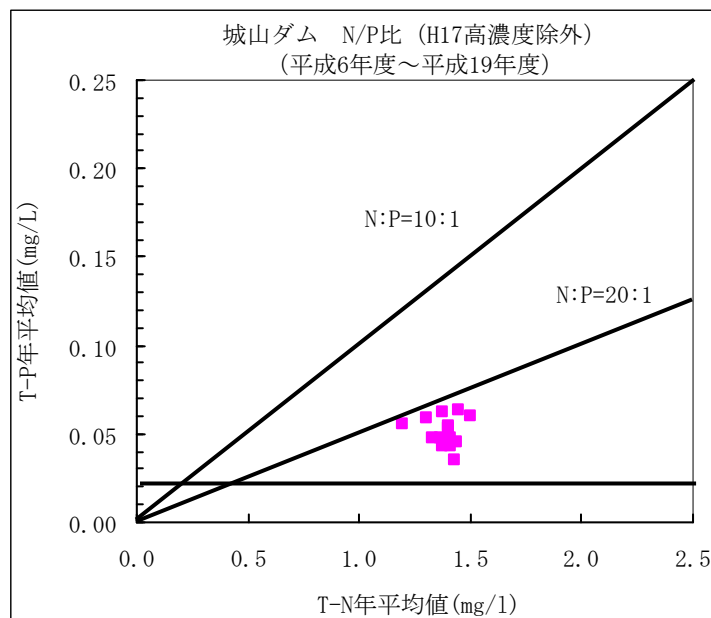


図 9.8 城山ダム N/P 比の状況 (H17 の異常値を除外)

ここで、城山ダムの流入河川水質 (COD、T-P) の経年変化は以下のとおりである。近年における流入河川水質は、湖沼内部よりも特段高い濃度は検出されていない。このことから、平成 17 年度の高濃度の要因については、植物プランクトンの増殖による内部生産の可能性が高い。

表 9.5 城山ダム流入河川の COD、T-P 経年変化

年度	COD (mg/L)				T-P (mg/L)	
	沼本ダム		道志橋		沼本ダム	道志橋
	75%値	平均値	75%値	平均値	平均値	平均値
H6	2.5	2.4	3.4	3.4	0.080	0.066
H7	2.5	2.2	4.0	3.4	0.089	0.052
H8	2.6	2.4	3.1	2.8	0.085	0.037
H9	2.3	2.1	3.3	2.8	0.088	0.046
H10	2.0	1.9	2.7	5.1	0.081	0.103
H11	2.3	2.0	2.2	2.2	0.081	0.038
H12	2.5	2.3	2.4	2.2	0.083	0.039
H13	3.4	2.5	3.2	2.6	0.084	0.029
H14	2.9	2.4	2.0	1.9	0.094	0.028
H15	2.3	1.4	1.9	1.7	0.078	0.036
H16	2.5	2.1	1.8	1.8	0.081	0.024
H17	2.8	2.4	2.9	2.3	0.089	0.046
H18	2.2	2.0	2.0	1.8	0.082	-
H19	2.9	2.3	2.0	1.7	0.084	0.018

城山ダムでは、曝気循環装置が設置されており、平成5年に空気揚水筒、散気管が各々1基、平成6年には散気管が3基、その後平成9年までに流動化装置が4基設置され、合計9基が設置された。城山ダム（津久井湖）の曝気循環装置設置位置を図9.9に示す。



図 9.9 城山ダム（津久井湖）曝気循環装置設置位置

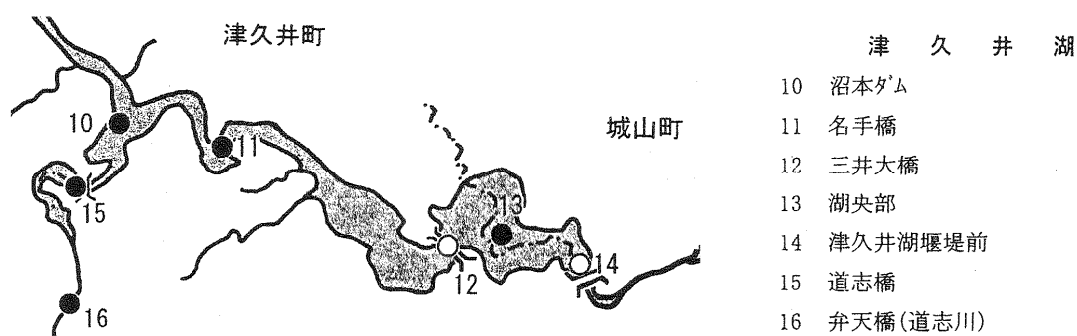
2.4 「窒素含有量又は磷含有量についての排水基準に係る湖沼」との関係について

ここで、城山ダムについては、平成10年6月に「窒素含有量又は磷含有量についての排水基準に係る湖沼」として、追加指定を受けており、その際に、根拠とした水質は下表のとおりである。この根拠とした水質は、4地点（沼本ダム、名手橋、湖央部、道志橋）での平均値となっており平成3年度から平成5年度まではNP比20を下回っており、排水規制の対象湖沼となっている。

表 9.6 城山ダムの各測定地点における NP 比等の経年変化（平成3年度～平成7年度）

4地点平均						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.30	2.70	1.51	1.37	1.40	1.66
T-P	0.087	0.512	0.090	0.064	0.061	0.163
T-N/T-P	15.0	5.3	16.8	21.5	23.1	10.2
①沼本ダム						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.28	1.30	1.48	1.42	1.48	1.39
T-P	0.088	0.083	0.086	0.078	0.089	0.085
T-N/T-P	14.5	15.7	17.2	18.2	16.6	16.4
②名手橋						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.35	1.66	1.6	1.32	1.4	1.47
T-P	0.095	0.153	0.103	0.056	0.059	0.093
T-N/T-P	14.2	10.8	15.5	23.6	23.7	15.7
③湖央部						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.28	1.39	1.45	1.37	1.44	1.39
T-P	0.067	0.057	0.070	0.048	0.045	0.057
T-N/T-P	19.1	24.4	20.7	28.5	32.0	32.2
④道志橋						
	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平均
T-N	1.29	6.43	1.51	1.37	1.28	2.38
T-P	0.096	1.755	0.100	0.073	0.049	0.415
T-N/T-P	13.4	3.7	15.1	18.8	26.1	5.7

現在の測定地点は下記のとおりであり、今回の審議会に係る検討資料のほとんどは湖央部での達成状況での資料としている。



注：図中●印の地点は水質汚濁防止法第16条に基づく水質測定計画の調査地点を示す

図 9.10 城山ダム水域の水質測定地点

表 9.7 城山ダム水域の水質測定地点情報

地点番号	水域名	地点番号	類型	備考
1403301	相模川上流(3)	沼本ダム	A(河川類型)	環境基準点
1403351	相模川上流(3)	名手橋	A(河川類型)	補助点
1403352	相模川上流(3)	湖央部	A(河川類型)	補助点
1403353	相模川上流(3)	道志橋	A(河川類型)	補助点

平成 15 年度から平成 19 年度については下記のとおりであり、平成 18 年度は NP 比 20 を上回っているもののその他の年は 20 を下回っている。

表 9.8 城山ダムの各測定地点における NP 比等の経年変化（平成 15 年度～平成 19 年度）

4地点平均	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.4	1.2	1.5	1.4	1.4	1.4
T-P	0.073	0.068	0.10	0.061	0.070	0.075
T-N/T-P	18.9	18.1	15.3	22.1	19.7	18.3
①沼本ダム						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.4	1.3	1.5	1.4	1.4	1.4
T-P	0.077	0.079	0.092	0.082	0.081	0.082
T-N/T-P	18.2	16.5	16.3	17.1	17.3	17.0
②名手橋						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.7	1.4	1.9	1.4	1.5	1.6
T-P	0.12	0.11	0.18	0.080	0.10	0.118
T-N/T-P	14.2	12.7	10.6	17.5	15.0	13.4
③湖央部						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.3	1.2	1.5	1.4	1.3	1.3
T-P	0.048	0.055	0.076	0.054	0.051	0.057
T-N/T-P	27.1	21.8	19.7	25.9	25.5	32.2
④道志橋						
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
T-N	1.1	1.0	1.2	1.2	1.3	1.2
T-P	0.047	0.029	0.064	0.027	0.049	0.043
T-N/T-P	23.4	34.5	18.8	44.4	26.5	26.9

これを過去 10 年間で、異常値等の検定をかけた後でのそれぞれの各測定地点における表及び図を示すと下記のとおりとなる。

表 9.9 城山ダムの各測定地点における NP の経年変化（平成 11 年度～平成 20 年度）

沼本ダム	沼本ダム	沼本ダム	名手橋	T-N	T-P	湖央部	T-N	T-P	道志橋	T-N	T-P
平成11年	1.47	0.081	平成11年	1.39	0.065	平成11年	1.4	0.053	平成11年	1.03	0.057
平成12年	1.48	0.084	平成12年	1.44	0.077	平成12年	1.38	0.043	平成12年	1.21	0.051
平成13年	1.48	0.083	平成13年	1.45	0.079	平成13年	1.41	0.048	平成13年	1.14	0.038
平成14年	1.5	0.095	平成14年	1.53	0.095	平成14年	1.45	0.058	平成14年	1.06	0.022
平成15年	1.39	0.077	平成15年	1.3	0.063	平成15年	1.33	0.048	平成15年	1.07	0.047
平成16年	1.34	0.079	平成16年	1.43	0.087	平成16年	1.25	0.055	平成16年	1.02	0.029
平成17年	1.43	0.092	平成17年	1.29	0.089	平成17年	1.37	0.06	平成17年	1.16	0.026
平成18年	1.44	0.082	平成18年	1.42	0.08	平成18年	1.4	0.054	平成18年	1.16	0.027
平成19年	1.42	0.081	平成19年	1.42	0.082	平成19年	1.31	0.051	平成19年	0.96	0.018
平成20年	1.36	0.078	平成20年	1.3	0.061	平成20年	1.28	0.046	平成20年	1.07	0.03

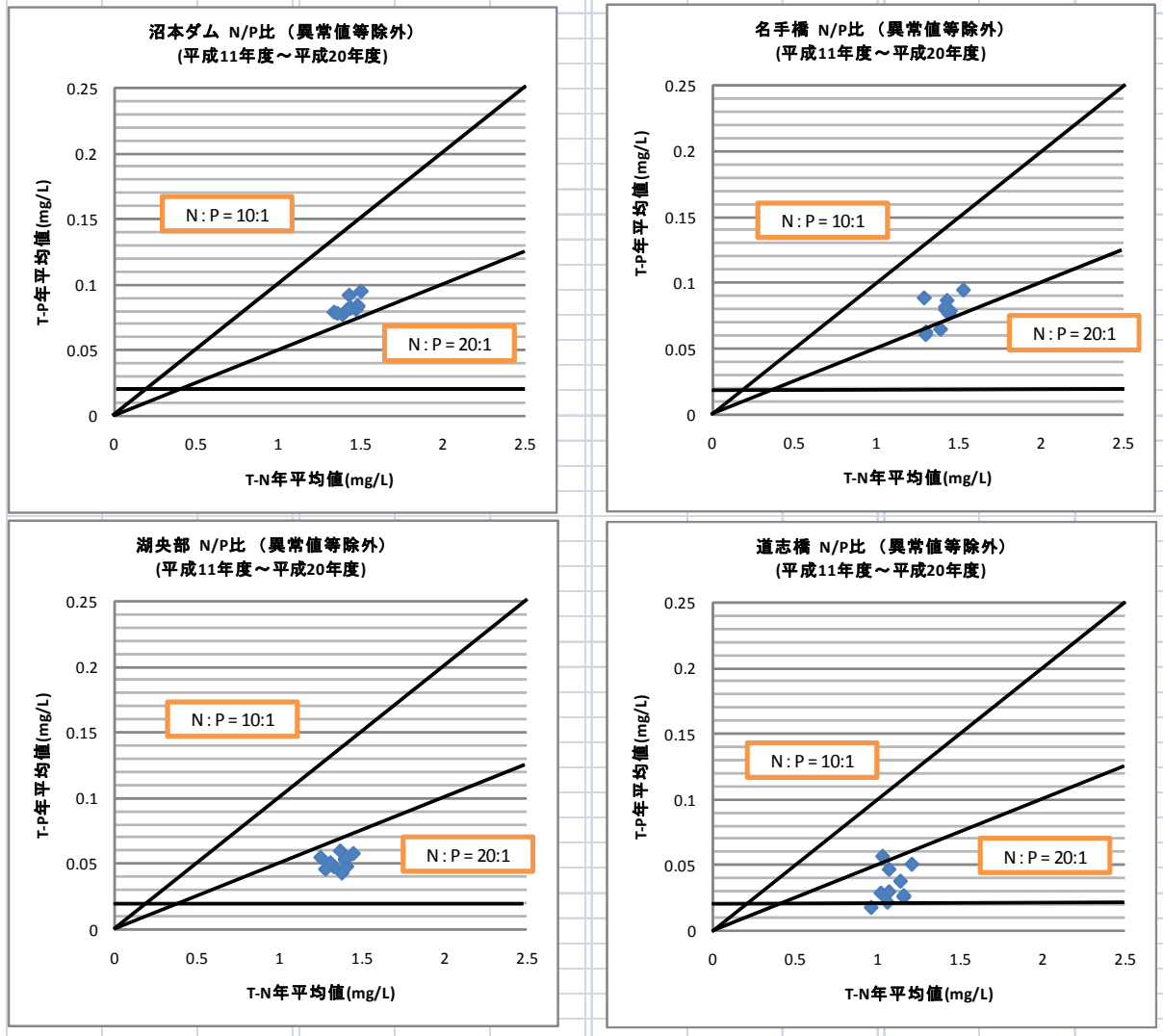


図 9.11 城山ダムの各測定地点における N/P 比の状況（異常値等除外）

なお、城山ダム（津久井湖）の水質測定に関しては、以前から沼本ダムまでを併せて、津久井湖として一体的にデータ整理等行っていることから、4地点で一体的に考えることが適当であることから、NP比に関しても、湖央部1点だけで考えることなく津久井湖全体としてNP比を考えることとする。

これにより、平成18年度はNP比20以下ではないものの、平成3年度から20以下として検討を行っている過去の経過も含めて考えると、NP比20以下については妥当なものであり、T-Nの項目の基準値を適用すべき湖沼の条件を満たしていると言える。

【参考】

平成13年5月31日付け環水企第92号「環境基本法に基づく水質環境基準の類型指定及び水質汚濁防止法に基づく常時監視等の処理基準」（抜粋）

②湖沼における全窒素及び全燐の環境基準の達成状況の評価

- ア. 湖沼における全窒素及び全燐の環境基準の達成状況の評価は、当該水域の環境基準点において、表層の年間平均値が当該水域が当てはめられた類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。
- イ. 複数の環境基準点を持つ水域については、当該水域内のすべての環境基準点において、環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。

2.5 城山ダムの利水状況

城山ダムの利水状況は、表9.10、表9.11に示すとおりである。なお、城山ダムを中心とした地域は、昭和58年に県立陣馬相模湖自然公園に指定されている。

表 9.10 城山ダムの利用目的

洪水調節	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○			○	○	○		○

資料：神奈川県政策部土地水資源対策課資料

表 9.11 城山ダムの利水等の現状

水利用途	利水の有無	利水状況	取水地点	特記事項
水道用水	有り	横浜市水道(西谷浄水場) 水源名：相模川水系(相模湖) 【処理水準：水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(AⅡ類型相当)】	城山ダム(沼本ダム)、相模大堰、寒川取水堰	カビ臭(ほぼ毎年)、ろ過障害(平成3,4,9年)
		川崎市水道(長沢浄水場・潮見台浄水場) 水源名：相模川水系(相模湖) 【処理水準：水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・多層ろ過)(AⅡ類型相当)】		
		神奈川県水道(谷ヶ原浄水場) 水源名：相模川水系(相模湖) 【処理水準：水道2級(急速ろ過・緩速ろ過・塩素処理・多層ろ過)(AⅡ類型相当)】		
		神奈川県水道(寒川浄水場) 水源名：相模川水系相模川 【処理水準：水道2級(急速ろ過・塩素処理・多層ろ過・酸処理)(AⅡ類型相当)】		—
		神奈川県内広域水道企業団(綾瀬浄水場) 水源名：相模川 【処理水準：水道2級(急速ろ過・塩素処理)(AⅡ類型相当)】 神奈川県内広域水道企業団(小雀浄水場) 水源名：相模川 【処理水準：水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(AⅡ類型相当)】		
農業用水	無し	—	—	—
工業用水	有り	—	城山ダム(沼本ダム)、寒川取水堰	—

注) 横須賀市においても相模川水系の水道利用があるが、浄水場は横浜市と共同で運営している。また、神奈川県からも浄水を受水している。

資料：水道水質データベース(http://www.jwwa.or.jp/mizu/or_up.html)
横須賀市上下水道局 HP(<http://www.water.yokosuka.kanagawa.jp/index.html>)
神奈川県内広域水道企業団 HP(<http://www.kwsa.or.jp/index.html>)

なお、城山ダム貯水池関連の浄水場における活性炭の使用状況を表 9.12に整理した。活性炭の投入については、異臭味や水質事故などの異常時に行っており、各浄水場の独自の基準（水質試験、官能試験等）により実施している。

表 9.12 城山ダム貯水池活性炭使用状況

対象水域	管理部署	浄水場名	水源名	処理水準	活性炭使用状況	
					注入状況 ※1	概要
相模ダム 城山ダム	横浜市水道局	西谷浄水場	相模湖 道志川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏から9、10月にかけて、原水に臭気が発生した場合に粉末活性炭(50%ウェット炭)を使用しており、ほぼ毎年、使用している。 ・現在、臭気物質(ジオスミン、2-MIB等)データを公表しているが、これは月1回の定期調査の結果である。 ・活性炭の投入基準は、官能検査を3人で実施して1人でも異常を感じたら投入する(検査は3h間隔)。 ・このほか、月1回の定期検査とは別に、詳細な検査を実施しており、これを判断基準にすることもある。 ・また、上流側の浄水場で活性炭投入の報告があれば投入することとしている。
		小雀浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・二段凝集処理・酸処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・原水水質があまりよくないので、臭気やTOCを見ながら通年を通して活性炭を投入する機会が多い。 ・夏場、冬場など季節に限らず投入しており、特に降雨の後は、水質が変化することが多いので投入することが多い。 ・粉末活性炭(50%ウェット炭)を使用している。
	川崎市水道局	長沢浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・多層ろ過)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・春先および夏場の臭気対策として粉末活性炭(50%ウェット炭)を使用している。 ・現状としては、ほぼ毎年使用している。
		潮見台浄水場	相模川 酒匂川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・マンガン接触ろ過・多層ろ過)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・本浄水場の原水は、相模川水系と酒匂川水系の混合水である。 ・よって、いずれかの水系で臭気が発生した場合に使用する。 ・春先および夏場の臭気対策として50%ウェット炭を使用している。 ・現状としては、ほぼ毎年使用している。
	神奈川県水道	谷ヶ原浄水場	沼本ダム	水道2級(急速ろ過・緩速ろ過・塩素処理・多層ろ過)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・年によって使用する量や期間は違うが、概ね夏場の臭気対策として50%ウェット炭を使用することが多い。 ・活性炭の投入基準は、官能検査を3人で実施して1人でも異常を感じたら投入する(検査は3h間隔)。 ・このほか、月1回の定期検査とは別に、詳細な検査をほぼ毎時間実施しており、これを判断基準にすることもある(夏場など、臭気物質が発生する可能性が大きい時期に実施)。 ・また、貯水池内の細胞数(アナベナ等)を監視しており、その状況で投入の必要性があるかどうかは事前にある程度把握できる状況になっている。
			寒川浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理・多層ろ過・酸処理)(A II 類型相当)	△
	神奈川県内広域水道企業団	綾瀬浄水場	相模川	水道2級(急速ろ過・塩素処理)(A II 類型相当)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・活性炭は基本的に水質事故が発生した場合にのみ入れている。 ・通常の高度処理ということではなく、非常時に投入している。 ・50%ウェット炭を使用している。

※○：常時注入、△：異常時注入、×：注入していない

城山ダム水域には、漁業権の設定はないが、神奈川県内水面試験場のヒアリング結果によれば、相模湖にはヤマメの生息情報がある。それらは上流や流入河川から流れてきたものであると考えられる。また、コイ、フナ等の生息が確認されている。

表 9.13 城山ダム水域に係る漁業権

漁業権対象魚種	なし（城山湖遊船協会によるワカサギ、フナ他の放流あり）
湖面における漁獲魚種	なし（遊漁あり）
湖面における釣り規制	内水面漁業管理委員会による禁止区域・期間有り

注）神奈川県ヒアリング結果、城山ダム管理年報による。

9.4 自然公園等

城山ダム水域に係るの自然公園等の状況は表 9.14及び図 9.12に示すとおりであり、沼本ダム地点より上流の水域において県立陣馬相模湖自然公園（第2種特別地域）となっている。

レクリエーション利用としては、「貸しボート・テニスコート等」がある。

表 9.14 城山ダム水域に係る自然公園等

名称	区域	地区の概要	面積 (ha)
相模川 河岸段丘	旧相模原市の一部	津久井溪谷の面影を今にとどめる唯一の場所であり、崖錘地にはシラカシ、ケヤキ、ミズキ、クヌギ、コナラなどの植生が見られ、四季折々の溪谷美を呈している。	104

資料：「県立陣馬相模湖自然公園 公園計画書（公園計画の一部変更）素案」（平成 18 年 1 月、神奈川県）

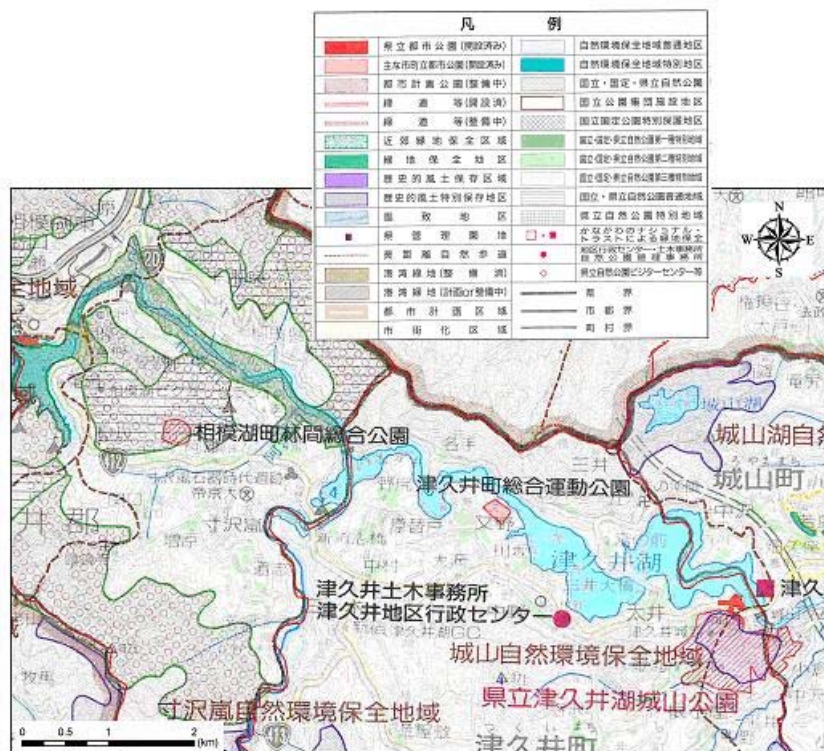


図 9.12 城山ダム水域及び周辺における自然公園等

資料：「かながわの公園緑地 2002」（平成 14 年 3 月、神奈川県）

2.7 城山ダム貯水池に係る水質汚濁負荷量

2.7.1 現況フレーム設定の概要

現況（平成 15 年度）における市町村別フレーム値（生活系、家畜系、土地系）を収集・整理し、流域に配分した。

各汚染源の負荷量算定のためのフレーム区分は表 9.15に示すとおりである。

表 9.15 負荷量算定のためのフレーム区分

汚染源	フレーム区分
生活系	市区町村別生活排水処理形態別人口（公共下水道、その他の点源[コミュニティプラント、農業集落排水処理施設等]、合併処理浄化槽、単独処理浄化槽、計画収集、自家処理）
産業系	「平成 16 年度 水質汚濁物質排出量総合調査」
家畜系	市区町村別家畜頭数（乳用牛、肉用牛、豚）
土地系	市区町村別土地利用形態別面積（田、畑、山林、市街地、その他）

(1) 生活系

生活系の流域フレーム作成に際しては、公共下水道整備図面に基づいて、公共下水道処理区域を設定した。市区町村別生活排水処理形態別人口のうち、公共下水道人口は各市町村の公共下水道処理区域に配分し、それ以外の生活排水処理形態別人口は、公共下水道処理区域外に配分した。

現況の生活系フレーム値は表 9.16に示すとおりである。

表 9.16 城山ダム貯水池流域の現況フレーム値 生活系

県名	流域名称	公共 下水道	農業集落 排水処理 施設	合併 浄化槽	単独 浄化槽	計画収集	自家処理	流域計
山梨県	山中湖	2,197	0	554	1,592	0	0	4,343
山梨県	河口湖	4,109	0	1,153	3,157	1,685	0	10,104
山梨県	宮川	11,170	0	3,993	10,721	11,269	0	37,153
山梨県	富士見橋上流	7,472	0	1,733	6,945	3,845	0	19,995
山梨県	大幡川	0	0	226	1,317	1,261	0	2,803
山梨県	大月橋上流	1,050	0	3,348	18,700	16,305	0	39,403
山梨県	桂川橋上流	63	0	10,325	30,949	14,568	0	55,905
山梨県	道志川上流	0	0	297	1,614	222	0	2,133
山梨県	秋山川	0	0	353	770	780	0	1,902
神奈川県	相模湖直接流入	2,085	0	1,107	7,904	1,639	0	12,735
神奈川県	沼本ダム上流	8,097	0	37	222	102	0	8,458
神奈川県	津久井湖直接流入	19,637	0	145	897	301	0	20,980
神奈川県	道志川下流	0	0	0	0	0	0	0
合計		55,881	0	23,270	84,788	51,977	0	215,915
単位		人	人	人	人	人	人	人
山梨県合計		26,062	0	21,981	75,764	49,935	0	173,743
神奈川県合計		29,819	0	1,289	9,023	2,042	0	42,173

(2) 産業系

産業系汚濁負荷量は、「平成16年度 水質汚濁物質排出量総合調査」を元に各流域に配分した。

(3) 家畜系・土地系

家畜系フレーム値の配分は、土地利用形態別面積の中、「田」及び「その他の農用地」の面積を用いた。

家畜頭数は市町村別に飼育頭数を把握し、土地利用形態別面積のうち「田」及び「その他の農用地」の割合を用いて、市町村別流域ブロック別に配分した。これらを流域ブロック別に集計して流域別家畜別の飼育頭数を算定した。なお、点源分（「平成16年度 水質汚濁物質排出量総合調査」）の家畜頭数を差し引いた。

また、土地系は市町村別土地利用面積を把握し、表9.17のように配分して、市町村別流域ブロック別に把握し流域ブロック別に集計した。

現況の家畜系・土地系のフレーム値は表9.18に示すとおりである。

表 9.17 土地系の配分

土地系フレーム区分	平成9年土地利用メッシュ
田	田
畑	その他の農用地
山林	森林
市街地	建物用地、幹線交通用地、その他の用地
その他	荒地、河川地及び湖沼、海浜、海水域、ゴルフ場

表 9.18 城山ダム流域の現況フレーム値 家畜系及び土地系

県名	流域名称	乳用牛	豚	田	畑	森林	市街地	その他	合計
山梨県	山中湖	0	0	70	111	3,938	425	1,678	6,222
山梨県	河口湖	0	0	63	54	2,535	153	1,335	4,140
山梨県	宮川	0	0	309	171	3,088	654	1,057	5,279
山梨県	富士見橋上流	0	0	563	371	4,309	439	1,745	7,427
山梨県	大幡川	0	0	112	111	2,227	65	467	2,982
山梨県	大月橋上流	0	0	837	638	11,744	748	1,484	15,451
山梨県	桂川橋上流	101	0	498	1,835	34,958	1,620	2,428	41,339
山梨県	道志川上流	0	0	89	255	7,262	53	82	7,741
山梨県	秋山川	17	0	52	251	3,776	60	96	4,235
神奈川県	相模湖直接流入	120	69	18	479	4,599	407	515	6,018
神奈川県	沼本ダム上流	88	700	8	193	1,929	213	152	2,495
神奈川県	津久井湖直接流入	494	1,303	41	514	4,244	466	662	5,927
神奈川県	道志川下流	79	624	0	0	2,175	0	25	2,200
合計		900	2,696	2,660	4,983	86,784	5,303	11,726	111,456
単位		頭	頭	ha	ha	ha	ha	ha	ha
山梨県合計		119	0	2,593	3,797	73,837	4,217	10,372	94,816
神奈川県合計		782	2,696	67	1,186	12,947	1,086	1,354	16,640

2.7.2 将来フレーム設定の概要

山梨県については、「日本の市町村別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所）および「相模川流域別下水道整備総合計画」に基づき、以下のとおり将来フレームを設定する。

- ・生活系：表 9.19に示すように算定する。
- ・産業系：製造品出荷額等が減少傾向であるため、現状維持とする。
- ・家畜系：家畜頭数が減少傾向であるため、現状維持とする（表 9.21）。
- ・土地系：将来大きく変わる要素が無いため現状維持とする（表 9.21）。

表 9.19 生活系の将来フレーム算定方法概要

総人口	「日本の市町村別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)の2013年の値とした。 出典： http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson03/T-Page/top.html
処理形態別	神奈川県生活排水処理施設整備構想の最終年次のし尿処理形態別人口の割合をもとに算定した。 なお、ダム集水域(旧津久井町、旧相模湖町、旧藤野町)の下水道整備、合併処理浄化槽人口に関しては、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」をもとに、以下のような設定を行った。 ・合併浄化槽の高度処理化について、当初5年間で300基設置する計画となっているため、平成25年度において300基設置するとした。また、合併処理浄化槽の高度化人口は、平成18年3月時点の旧3町の総人口/世帯数 \div 3人/世帯をもとに900人とした。この900人を「相模湖直接流入流域」、城山ダム貯水池の流域である「沼本ダム上流流域」、「津久井湖直接流入流域」に配分した。 「山梨県生活排水処理設備整備構想」より公共下水道人口、コミュニティプラント人口、農業集落排水処理施設人口、合併処理浄化槽人口について把握した(計画値)。 一方、単独処理浄化槽人口、計画収集人口、自家処理人口については、平成6年度から平成15年度の人口の経年変化を用いて線形解析して、平成25年度の値(トレンド値)を求めた。

表 9.20 城山ダム貯水池流域の将来フレーム値 生活系

県名	流域名称	公共 下水道	農業集落 排水処理 施設	合併 浄化槽	単独 浄化槽	計画収集	自家処理	流域計
山梨県	山中湖	3,215	0	330	367	0	0	3,912
山梨県	河口湖	6,222	0	1,960	1,361	791	0	10,334
山梨県	宮川	15,554	0	5,055	7,159	5,952	0	33,721
山梨県	富士見橋上流	11,416	0	2,721	3,005	1,750	0	18,892
山梨県	大幡川	571	0	879	925	428	0	2,802
山梨県	大月橋上流	9,276	0	10,874	12,946	5,651	0	38,746
山梨県	桂川橋上流	16,813	0	12,326	16,953	5,068	0	51,160
山梨県	道志川上流	0	0	1,476	337	58	0	1,871
山梨県	秋山川	763	0	425	439	266	0	1,893
神奈川県	相模湖直接流入	6,112	0	1,647 (627)	3,059	1,536	0	12,354
神奈川県	沼本ダム上流	9,437	0	112 (112)	232	25	0	9,805
神奈川県	津久井湖直接流入	22,698	0	349 (161)	765	122	0	23,933
神奈川県	道志川下流	0	0	0	0	0	0	0
合計		102,077	0	39,052	47,547	21,648	0	209,423
単位		人	人	人	人	人	人	人
山梨県合計		63,830	0	36,044	43,491	19,965	0	163,330
神奈川県合計		38,247	0	3,008	4,055	1,683	0	46,093

注)括弧の数字は高度処理化人口を表す。

表 9.21 城山ダム貯水池流域の将来フレーム値 家畜系及び土地系

県名	流域名称	乳用牛	豚	田	畑	森林	市街地	その他	合計
山梨県	山中湖	0	0	70	111	3,938	425	1,678	6,222
山梨県	河口湖	0	0	63	54	2,535	153	1,335	4,140
山梨県	宮川	0	0	309	171	3,088	654	1,057	5,279
山梨県	富士見橋上流	0	0	563	371	4,309	439	1,745	7,427
山梨県	大幡川	0	0	112	111	2,227	65	467	2,982
山梨県	大月橋上流	0	0	837	638	11,744	748	1,484	15,451
山梨県	桂川橋上流	101	0	498	1,835	34,958	1,620	2,428	41,339
山梨県	道志川上流	0	0	89	255	7,262	53	82	7,741
山梨県	秋山川	17	0	52	251	3,776	60	96	4,235
神奈川県	相模湖直接流入	120	69	18	479	4,599	407	515	6,018
神奈川県	沼本ダム上流	88	700	8	193	1,929	213	152	2,495
神奈川県	津久井湖直接流入	494	1,303	41	514	4,244	466	662	5,927
神奈川県	道志川下流	79	624	0	0	2,175	0	25	2,200
合計		900	2,696	2,660	4,983	86,784	5,303	11,726	111,456
単位		頭	頭	ha	ha	ha	ha	ha	ha
山梨県合計		119	0	2,593	3,797	73,837	4,217	10,372	94,816
神奈川県合計		782	2,696	67	1,186	12,947	1,086	1,354	16,640

2.8 原単位の設定

2.8.1 生活系・家畜系の原単位

生活系と家畜系の汚濁負荷量原単位は表 9.22に示すとおりであり、各フレームにこの原単位を乗じて汚濁負荷量を算出した。

表 9.22 城山ダム貯水池流域の発生汚濁負荷量原単位：生活系・家畜系

	単位	COD		T-N		T-P		
		原単位	除去率 (%)	原単位	除去率 (%)	原単位	除去率 (%)	
生活系	合併処理浄化槽	g/(人・日)	27.0	71.5	11.0	40.9 (65.9)	1.3	42.3 (82.0)
	単独処理浄化槽	g/(人・日)	10.0	53.5	9.0	34.4	0.9	30.0
	雑排水	g/(人・日)	17.0	0.0	2.0	0.0	0.4	0.0
	自家処理	g/(人・日)	10.0	90.0	9.0	90.0	0.9	90.0
家畜系	乳用牛	g/(頭・日)	530.0	90.0	290.0	90.0	50.0	90.0
	肉用牛	g/(頭・日)	530.0	90.0	290.0	90.0	50.0	90.0
	豚	g/(頭・日)	130.0	90.0	40.0	90.0	25.0	90.0

注) 合併処理浄化槽の T-N、T-P の除去率の () は、高度処理による除去率を表す。

出典：流域別下水道整備総合計画調査 指針と解説 平成 20 年版 (社)日本下水道協会

2.8.2 産業系の原単位

産業系汚濁負荷量は、原単位法ではなく、「平成 16 年度 水質汚濁物質排出量総合調査」の調査結果を用いて、実測水量×実測水質で汚濁負荷量を算出し、各流域に配分した。

2.8.3 土地系の原単位

土地系（山林）の負荷量原単位については、その精度向上のため、「昭和 62 年度 湖沼水質汚濁機構等検討調査（昭和 63 年 3 月）」（以下、「S62 調査」という。）や「平成 20 年度 相模川水系類型指定に係る発生負荷量検討調査」（以下、「H20 調査」という。）等が実施されている。

各調査の概要を以下に示す。

(1) S62 調査

1) 調査内容

ア) 調査地点の概要

調査地点の概要は、以下に示すとおりである。

表 9.23 調査地点の概要

調査地点	調査日時
大幡川	昭和 62 年 7 月 28 日 昭和 62 年 10 月 6 日 昭和 62 年 12 月 21 日
葛野川	昭和 62 年 7 月 28 日 昭和 62 年 10 月 13 日 昭和 62 年 12 月 21 日
真木川	昭和 62 年 7 月 28 日 昭和 62 年 10 月 13 日 昭和 62 年 12 月 22 日
朝日川	昭和 62 年 7 月 29 日 昭和 62 年 10 月 7 日 昭和 62 年 12 月 21 日
鹿留川	昭和 62 年 7 月 29 日 昭和 62 年 10 月 7 日 昭和 62 年 12 月 21 日

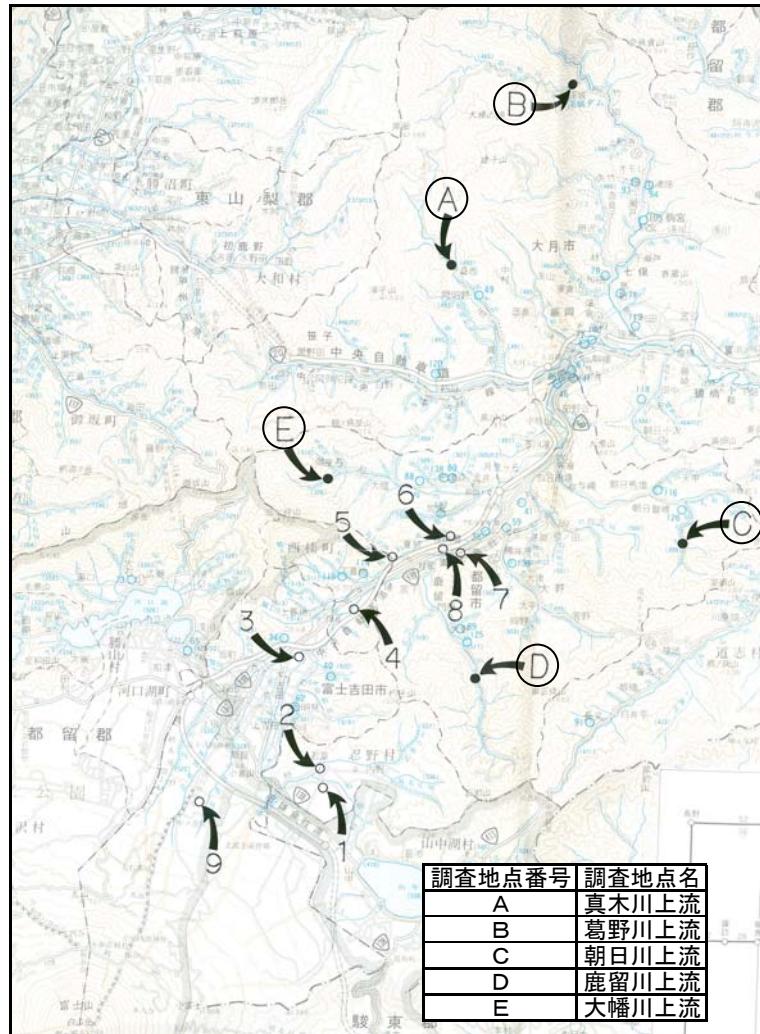


図 9.13 調査地点図 (S62 調査)

1) 調査項目

調査項目および分析方法は以下に示すとおりである。

表 9.24 調査項目および分析方法

項目	分析方法
1	pH ガラス電極法
2	伝導率 伝導率計
3	SS 環境庁告示 4 1 号付表 6
4	COD KMnO ₄ 法 (100℃)
5	NH ₄ -N フェノールハイポクロライト法
6	NO ₂ -N ナフチルエチレンジアミン法
7	NO ₃ -N イオンクロマト法
8	T-N 環境庁告示 1 4 0 号
9	PO ₄ -P アスコルビン酸還元比色法
10	T-P 環境庁告示 1 4 0 号
11	Cl イオンクロマト法
12	溶解性COD 1μのGF Pろ過 4の方法
13	溶解性T-N 1μのGF Pろ過後 8の方法
14	溶解性T-P 1μのGF Pろ過後 10の方法

ウ) 調査結果

調査結果は、以下に示すとおりである。

表 9.25 調査結果

項目	負荷量(g/ha/日)			
	田	畑	山林	市街地
COD	—	—	16.7	—
T-N	—	—	6.60	—
T-P	—	—	0.080	—

(2)H20 調査

1) 調査内容

ア) 調査の概要

調査の概要は、以下に示すとおりである。

表 9.26 調査の概要

調査地点	調査日時	備考
朝日川 (No. 1、No. 2)	灌漑期 : 平成 20 年 9 月 11 日 非灌漑期 : 平成 20 年 11 月 6 日 冬季 : 平成 21 年 1 月 5 日	水田を主体とした農業地域 (上流域は山林を主体とした地域)
向沢川 (No. 3、No. 4)	夏季 : 平成 20 年 9 月 11 日 秋季 : 平成 20 年 11 月 6 日 冬季 : 平成 21 年 1 月 5 日	畑作を主体とした農業地域
戸沢川 (No. 5)	夏季 : 平成 20 年 9 月 11 日 秋季 : 平成 20 年 11 月 6 日 冬季 : 平成 21 年 1 月 5 日	自然地域 (山林を主体とした地域)

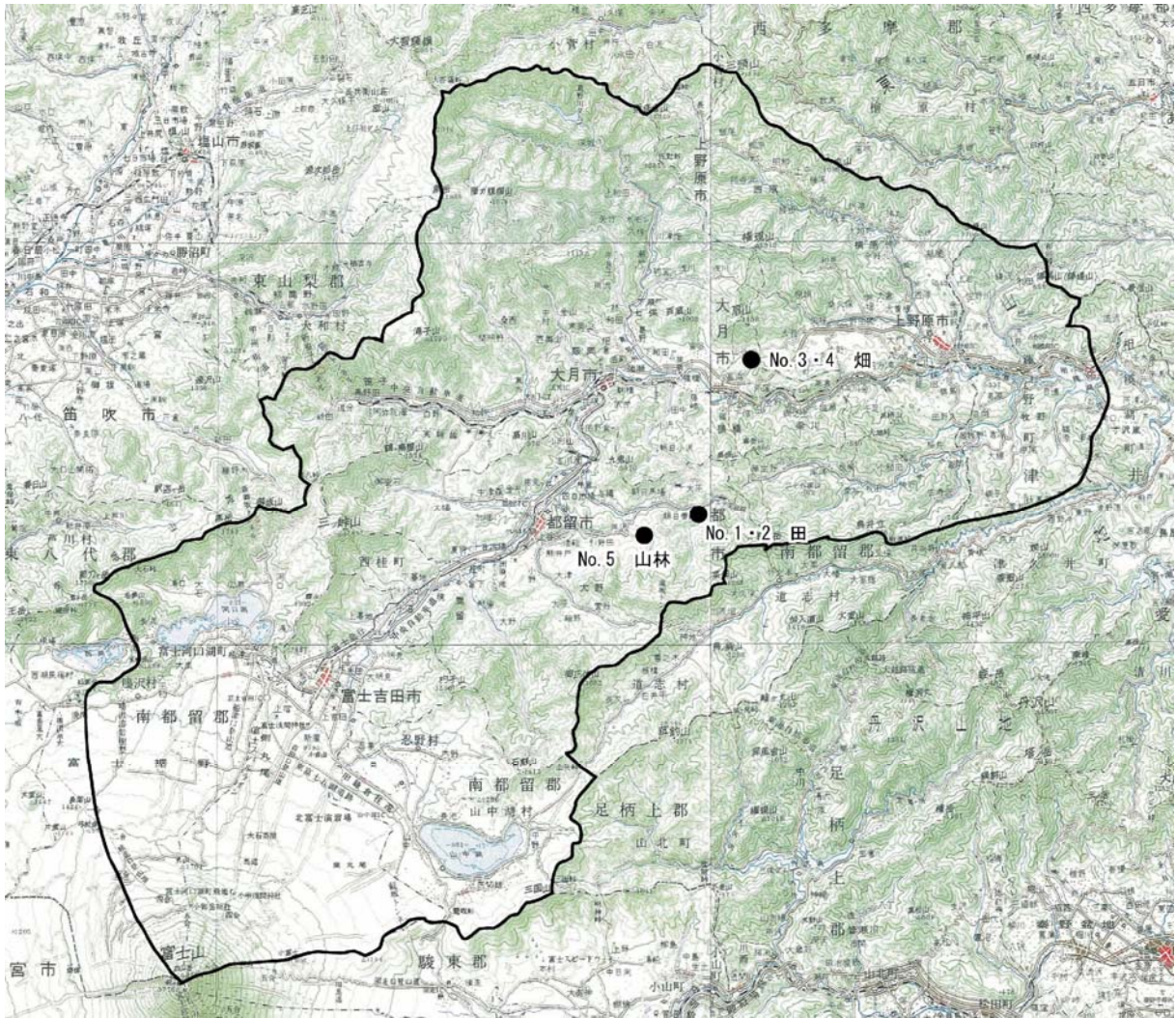


図 9.14 調査地点図

1) 調査項目

調査項目および分析方法は以下に示すとおりである。

表 9.27 調査項目および分析方法

項目	分析方法	
1	pH	ガラス電極法
2	伝導率	伝導率計
3	SS	環境庁告示 41 号付表 6
4	COD	KMnO ₄ 法 (100℃)
5	NH ₄ -N	フェノールハイポクロライト法
6	NO ₂ -N	ナフチルエチレンジアミン法
7	NO ₃ -N	イオンクロマト法
8	T-N	環境庁告示 140 号
9	PO ₄ -P	アスコルビン酸還元比色法
10	T-P	環境庁告示 140 号
11	C1	イオンクロマト法
12	溶解性COD	1μm の GFPろ過後 4 の方法
13	溶解性T-N	1μm の GFPろ過後 8 の方法
14	溶解性T-P	1μm の GFPろ過後 10 の方法